

## 令和5年度 第1回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日時】 令和5年8月3日(木)  
14時30分～16時25分

【場所】 新潟市歴史博物館セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 (新潟大学人文学部名誉教授)  
渋川 綾子 副会長 (にいがた湊あねさま倶楽部)  
石黒 裕則 委員 (新潟市立木崎中学校長)  
石塚 正朗 委員 (新潟日報社 読者局 事業担当部長)  
大籾 裕一郎 委員 (新潟市小中学生PTA連合会 副会長)  
久保 有朋 委員 (古町花街の会)  
品田 泰 委員 (BSN新潟放送 ビジネスプロデュース局 事業部長)  
中村 美香 委員 ((有)ミカユニバーサルデザインオフィス)  
中村 元 委員 (新潟大学人文学部准教授)  
南雲 美香 委員 (公募委員)  
宮城 貴志 委員 (日本旅行業協会 関東支部 新潟地区委員長)

【オブザーバー】 萬歳 真紀 新潟市歴史文化課 課長

【事務局】 坂井 秀弥 新潟市歴史博物館 館長  
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長  
鷲尾 雄二 旧小澤家住宅 館長  
高桑 一代 新潟市歴史博物館 総務担当次長  
大森 慎子 新潟市歴史博物館 学芸担当次長  
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長  
森 行人 新潟市歴史博物館 学芸課長  
設楽 明子 新潟市歴史博物館 職員

## 【 次 第 】

### 1.開 会

### 2.館長挨拶 詳細別紙

### 3.各委員・オブザーバー自己紹介、事務局紹介

### 4.協議会・会長の選任 詳細別紙

### 5.議事

#### (1) 令和4年度の館運営報告

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 1～6 に沿って、事務局から説明。

#### 《 質疑応答 1 》 詳細別紙

#### (2) 令和5年度の館運営状況

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 7～13 に沿って、事務局から説明。

#### 《 質疑応答 2 》 詳細別紙

### 6.閉会

尚、本会議に先立ち、新潟市歴史博物館令和5年度企画展「川村修就と新潟」展および博物館内施設概要を担当学芸員より案内した。

また、本会議ではスクリーン映像も使用して両館の概要説明と事業説明を行った。

## 《館長挨拶》

(坂井 館長)

今回は任期2年の始まりの年であり、初めてご参加の委員も多い。博物館の活動についてご理解いただくとともに厳しい意見も頂戴しながらよりよい博物館運営につとめてまいりたい。設置要綱第1条には「『運営について意見を聴くため』協議会を置く」とある。ご意見を頂いてそれに我々が答えることで、委員の皆様にはみなとびあのおよき理解者であり応援団になっていただきたいという思いである。率直な意見を頂いてよりよい博物館にしていき、より多くの市民の方々に博物館を知っていただくことにつなげたい。

来年は20周年になる。それに向けて特別な事業ができればいいと思い、市の歴史文化課とも色々と画策しているところであるので、見守っていただきたい。

## 《協議会の会長・副会長の選任》

立候補・他薦がなかったため、事務局より会長職を池田委員、副会長職を渋川委員で提案したところ、「異議なし」と了承を得た。

## 《質疑応答1》

(久保 委員)

来館者数について、両館ともコロナからの回復が見えてきたとのことだったが、インバウンド、海外からのお客が増えているか。

(小林 副館長)

令和4年度までは渡航制限もあってクルーズ船もないし、外国人を見かけなかったが、令和5年度に入って変わってきた。クルーズ船が2回やってきているし、台湾の直行便ができた関係もあり、毎週台湾からお客様がいらっしゃっている。小グループなり個人客で西洋のお客も増えてきているのが最近の印象。

(鷺尾 館長)

正確な統計データは取っていないが、受付での実感としては、コロナ禍1、2年目は外国人が激減してほとんどいらっしゃらなかったが、今年の春先から中国語を話される、おそらく台湾からの旅行者が戻ってきた。4～5月くらい

から英語圏の方がだいぶ戻ってきている。

---

(久保 委員)

外国人が増えてきている状況で、ガイドだとか展覧会などで英語を中心とした外国語対応はどのような動きがあるか。

(小林 副館長)

我々もその点は弱いところで、4年間外国人がやってきていない状況で後手に回っている実感はある。G7開催で外国の方、関係者がいらっしゃる中、十分な外国語対応ができなかった。ボランティアの中で外国語が得意な方もいらっしゃるので、ボランティアに依頼することもある。また、古い機械ではあるが、音声ガイドも使用している。スマホでQRコードを読み取ってもらうと音声ガイドが始まるようなサービスも細々と始めている。我々にとっても課題のひとつと思っている。

(鷺尾 館長)

外国語の展示解説については皆無。今までやっている方法として、英語版パンフレットがないので、日本語パンフレットの内容を英・中・韓でワードで打ったものを渡している。また館内の見所を写真に撮ったカラーのガイドブックのようなものを作成して、それをお貸しして館内を見てもらうことをやっている。音声ガイドや職員の対応は出来ていない。

(久保 委員)

齋藤家住宅では1年半前から英語ガイドの養成講座を、毎週に近い頻度で行っている。ボランティアの中に英語の先生が居るので講師として、勉強し合う講座形式でやったところ、皆さん楽しみながら新しい解説をつくるなど発展したものになった。そういうやり方もあると参考にしてもらえれば。

もう1点。ボランティアガイドの活動状況で、小澤家は傾向の変更はなかったが、みなとびあで令和2年度はコロナの影響で下がったものの、令和3年度、令和4年度は1回あたり60人程度と、1回あたりの案内人数が増えている。団体客が増えたとか、対応の方針が変わったのか、状況が変わってきたのか、何か理由があれば教えてほしい。

(小林 副館長)

この場ですぐに回答が難しいので確認して回答する。 →回答別紙

## 《質疑応答 2》

(洪川 副会長)

多岐に渡る事業を忙しく行っていることに敬服する。コロナが落ち着いて入館者が増えているのは喜ばしいこと。

令和4年度むかしの暮らし展、「ごっつお！」展が1万人を超えているのに、もっと見てほしい「新潟の中世」展が3555人。親しみやすさの点などで差がつくのは当然だが、歴史的、専門的なことはどうも固くなってしまう。それを崩す勇気が持てないか。せっかくだらいい資料がある。新潟そのものの歴史を広くお見せするという点で工夫がほしい。

(坂井 館長)

私も同じように感じている。歴史資料をどう分かりやすく展示解説するか、新潟市民に歴史資料とのつながりをどう意識してもらうかは難しい課題だと思う。今回の川村修就展もかなり難しいものであるが、担当学芸員が親しみやすいように修就のイラスト入りの解説パネルを入れたり、寺町の屋敷が歴史的な地図上ではどこだとか、(寒暖規測の展示で)温度計や暦を今の温度や暦に直したパネルを作って今の我々の生活と比較できるようにだとか、分かりやすいように色々な試みをやってはいるが、まだまだなところはあつ。

もうひとつ、今の地図の上に歴史的なものを乗せるようなパネル、「江戸新潟地図」とでも言いましょうか、そういうのができると今の町も実際に江戸時代の町が下にあり、昔と今が重なっていることが分かる。視覚的に今の我々と歴史が繋がるような媒体を何か工夫できないかと考えている。来年20周年に向けて何かできたらいいなと個人的には思っている。

入館者の数については、暮らし展は無料の展示で、学校単位で来るという違いもあるので一概に比較できないが、いずれにしてももう少し工夫を考えたい。

(森 課長)

館長より回答した暮らし展について補足する。暮らし展は学校、児童、家族メインの展覧会だが、9～11月の秋の行楽シーズンの一番いいところで開催しているのはひとつ議論のあるところで、博物館スタートの時に、この時期に大きな展覧会を据えたほうがいいのではないかと議論はあつた。暮らし展は予算規模としては小さい。小学校の単元に合わせて9～11月に小学校から見学にくるので、それに対応していくことが博学連携に力を入れる一つの柱になるだろうとの思いでその時期に開催することとなつた。ただ、毎年同じものをやるのではなくて毎年テーマを変えながらやることで一般の方にもご覧いた

だき、その積み重ねが来館者数に繋がっているのはある。歴史の大きなテーマのものを、関心を引く、親しみやすいものにとというご意見に対しては引き続き努力していきたい。

(渋川 副会長)

案内していただいた川村修就展は面白かった。1点要望として、注目の展示ポイントのコメントは倍くらい大きく目立つようにして、展示担当の学芸員の顔イラストでも入れて目立つようにしたらよい。同じビジュアルでは目立たない。この展示会が充実した、よく考えられた展示だというのは分かったし、その点は良かった。

---

(石黒 委員)

学校関係からひと言。教師は教科書を進めていくことに追われる。例えば明治時代の最初の県知事だとか、なるべく新潟の郷土史に触れるようにはするが、深くまでは難しく、自分も悩んできたところ。また、学校側からすると子どもたちを移動させるのにお金がかかる。そのバス代の予算を決めるのは前年度。前年度のうちに「こういうことができる」「こういう企画展がある」と発信してもらえると組み込めるのではないか。中学だと新潟巡検と言って、マリンピアやみなとびあなどいろいろなところを1日かけて巡検する。広域になっているからこそ中心地に多くの生徒が来ている。職場体験でも、ガイドなど県政記念館でやっているが、そういったプログラムがみなとびあでできることを発信してほしい。知らない先生方も多い。学校にずっと居るとパンフレットが来て教室に掲示して、という程度で終わってしまう。例えば校長会などに来ていただいて紹介してもらおうとよい。

来館者については2つあると思う。市民の交流の部分とインバウンド、外国の方を含めて県外からの方が来る中で、一番大事なのはリピーターではないか。ここは整備されて、たくさんの方が来ているが、もう一歩入ってもらいたい新しい仕掛けが欲しい。

(小林 副館長)

校長会はお邪魔できるようであればぜひ伺わせていただきたい。

---

(中村(美) 委員)

障がい者の方がガイドを担ってまち歩きをする団体の事務局をやっている。

ろう者は新潟市の歴史を習う暇なく社会に出ている現実があつて、新潟の歴史をほとんど知らなかった。手話通訳を同伴して解説を学芸員にいただいた時の反応がとても良く、もう一回行きたいという声が非常に多かった。

障がいのある子どもたちにも来てもらえるような機会を作っていただきたい。発達障害などさまざまな障がいで騒いでしまう子たちに対しても何かしら触れられるものがあるといい。視覚障がい者に対しては言葉でどんなに紡いでも見ることはできないので触りたがることが多い。レプリカなど、触れるものをボランティアさんの力で作成してもらって触らせてあげたいと感じた。外国人対応としては、今は比較的携帯電話で自国の文字で浮かび上がるようになっている。QRコード読み込めば出てくるものなどが増えてくるとかなりよい。海外の博物館に行くとそういう対応があるので今後少しずつ検討いただきたい。

ご案内頂いた川村修就展について、植えられた松が残っている可能性があるということで、そこに行けるといふ案内をしてもらおうといいと感じた。その時に交通案内を付けないと難しい。アクセスの問題は難しい点もあると思うが、外国人も若い方は歩いたり自転車に乗ったりフットワーク良く回れる。自転車を停める場所のお知らせに気を配るなど、市全体で連携することで新潟市を知ることができ、市民にも初めての気づきがあると思う。

今、キーになっている万代エリア・新潟2kmエリアとどうつなげていくか、来年にかけて戦略を立ててもらおうと人の面白い流れが出てきて、文化に触れて活動につなげ市民が動き出すこともあるのではないかと思う。

小澤家住宅に関しては、車いすで行っても楽しくないんじゃないかと言われることもあるが、車いす目線だからこそ見られる設えとか、通りドアの高さがちょうどよくて、通りドアから見られる庭の美しさとかがある。こういう楽しみ方があるよとPRしていただけるといいと思う。

どちらの施設も新潟の宝なので一緒になってPRさせていただきたい。

(小林 副館長)

障がい者に対して、ユニバーサルまち歩きで参加者のご意見あれば聴かせていただきこちらで対応できることがあれば即していき、我々も勉強していきたいのでこれからもアドバイスいただきたい。

2km関係について、館単独だとできないこともあるので、歴史文化課や観光関係との連携、当館もその一角として新潟全体を盛り上げていく仕組みづくりができればいいと思う。我々の課題としていきたいので、今後も忌憚のないご意見をいただきたい。

以上

(久保委員からの質問)

【新潟市歴史博物館決算参考データより】

みなとびあのボランティアガイド活動状況で、令和2年度はコロナの影響で下がったものの、令和3年度、令和4年度は1回あたり60人程度と、1回あたりの案内人数が増えている。団体客が増えたのか、対応の方針が変わったのか、それとも状況が変わってきたのか、何か理由があれば教えてほしい。

(回答)

ボランティアスタッフは高齢者も多く、コロナ禍で活動を控える人たちが多く見られた。令和2年度は客数が減ったうえにその傾向が顕著に見られ、それが数字に現れている。

令和3年度は外出制限で県内および近隣の学校から修学旅行で来館されることが多かった。そのため、団体客が増えて1回あたりの案内人数が増えたと分析される。令和4年度は学校・一般の団体客ともに増えてきており、1回あたりの人数制限も緩和傾向であった。一方で個人客への案内は依然として縮小傾向にあり、回数がそこまで増えていないと思われる。

以上